

デーヴォ ガイド



2023.8.14-20

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



21:27 ところが、その七日の期間が終わろうとしていたとき、アジアから来たユダヤ人たちは、パウロが宮にいるのを見ると、群衆をみな扇動して、彼に手をかけ、

21:28 こう叫んだ。「イスラエルの皆さん、手を貸してください。この男は、民と律法とこの場所に逆らうことを、いたるところで皆に教えている者です。そのうえ、ギリシア人を宮の中に連れ込んで、この神聖な場所を汚しています。」

21:29 彼らは、エペソ人のトロフィモが町でパウロと一緒にいるのを以前に見かけていて、パウロが彼を宮に連れ込んだと思ったのである。

21:30 そこで町中が大騒ぎになり、人々は殺到してパウロを捕らえ、宮の外へ引きずり出した。すると、ただちに宮の門が閉じられた。

21:31 彼らがパウロを殺そうとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、ローマ軍の千人隊長に届いた。

21:32 彼はただちに、兵士たちと百人隊長たちを率いて、彼らのところに駆けつけた。人々は千人隊長と兵士たちを見て、パウロを打つのをやめた。

21:33 千人隊長は近寄ってパウロを捕らえ、二本の鎖で縛るように命じた。そして、パウロが何者なのか、何をしたのかと尋ねた。

21:34 しかし、群衆はそれぞれに違ったことを叫び続けていた。千人隊長は、騒がしくて確かなことが分からなかったので、パウロを兵営に連れて行くように命じた。

21:35 パウロが階段にさしかかったとき、群衆の暴行を避けるために、兵士たちは彼を担

ぎ上げなければならなかった。

21:36 大勢の民衆が、「殺してしまえ」と叫びながら、ついて来たからである。

21:37 兵営の中に連れ込まれようとしたとき、パウロが千人隊長に「少しお話ししてもよいでしょうか」と尋ねた。すると千人隊長は、「おまえはギリシア語を知っているのか。」

21:38 では、おまえは、近ごろ暴動を起こして、四千人の暗殺者を荒野に連れて行った、あのエジプト人ではないのか」と言った。

21:39 パウロは答えた。「私はキリキアのタルソ出身のユダヤ人で、れっきとした町の市民です。お願いします。この人たちに話をさせてください。」

21:40 千人隊長が許したので、パウロは階段の上に立ち、静かにするよう民衆を手で制した。そして、すっかり静かになったとき、ヘブル語で次のように語りかけた。

アジアから来たユダヤ人とは、五旬節の祭りのためにエペソ地方からはるばるエルサレムに来た人々で、かつてパウロが彼の地で宣教したときにトロフィモと一緒にの場所を見たようです。恐らくパウロを迫害した人々でしょう。

パウロにとってはどこで災難に遭うかわからないといった出来事です。しかしここでも主は彼を守ってくださいました。

騒ぎが大きくなったことは恐れることですが、しかしそのおかげで千人隊長が来て、結果的にパウロを守ることになりました。またパウロがギリシア語を話すことによって、千人隊長が興味を持ち、ローマの市民権を持っていることを伝えることができました。それが弁明と証しのチャンスになったのです。

主は思いがけない人（または事）を通して助け

てくださいます。主の全能に期待しましょう。また主が与えてくださった恵や賜物が用いられるように導いてくださいます。大いに学び、また働きのために備えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 火曜

使徒

22:1 「兄弟ならびに父である皆さん。今から申し上げる私の弁明を聞いてください。」

22:2 パウロがヘブル語で語りかけるのを聞いて、人々はますます静かになった。そこでパウロは言った。

22:3 「私は、キリキアのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しく教育を受け、今日の皆さんと同じように、神に対して熱心な者でした。

22:4 そしてこの道を迫害し、男でも女でも縛って牢に入れ、死にまでも至らせました。

22:5 このことについては、大祭司や長老会全体も私のために証言してくれます。この人たちから兄弟たちに宛てた手紙まで受け取って、私はダマスコへ向かいました。そこにいる者たちも縛り上げ、エルサレムに引いて来て処罰するためでした。

22:6 私が道を進んで、真昼ごろダマスコの近くまで来たとき、突然、天からのまばゆい光が私の周りを照らしました。

22:7 私は地に倒れ、私に語りかける声を聞きました。『サウロ、サウロ、どうしてわたしを迫害するのか。』

22:8 私が答えて、『主よ、あなたはどなたですか』と言うと、その方は私に言われました。『わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスである。』

22:9 一緒にいた人たちは、その光は見たのですが、私に語っている方の声は聞き分けられませんでした。

22:10 私が『主よ、私はどうしたらよいでしょうか』と尋ねると、主は私に言われまし



た。『起き上がって、ダマスコに行きなさい。あなたが行くように定められているすべてのことが、そこであなたに告げられる』と。

22:11 私はその光の輝きのために目が見えなくなっていたので、一緒にいた人たちに手を引いてもらって、ダマスコに入りました。

22:12 すると、律法に従う敬虔な人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人たちに評判の良い、アナニアという人が、

22:13 私のところに来て、そばに立ち、『兄弟サウロ、再び見えるようになりなさい』と言いました。するとそのとき、私はその人が見えるようになりました。

22:14 彼はこう言いました。『私たちの父祖の神は、あなたをお選びになりました。あなたがみこころを知り、義なる方を見、その方の口から御声を聞くようになるためです。』

22:15 あなたはその方のために、すべての人に対して、見聞きしたことを証する証人となるのです。

22:16 さあ、何をためらっているのですか。立ちなさい。その方の名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』

パウロは手紙の中で自分のことを「使徒の中で最も小さい者」と言っていますが、それは教会を迫害したからです。しかし一方ここで弁明のように、それがユダヤ人への証しにも用いられます。クリスチャンは過去のマイナスさえも主にあっては証しになり得るのです。

証しする者は「武勇伝」や「苦勞話」にならないように、主を証しするという目的を踏まえましょう。また分かち合ってもらおう会衆も、そこか

ら主のすばらしさを悟るように聞きましょう。

パウロは救いにあたっては、主に「どうしたらよいのでしょうか」と聞き、主はその使命について告げられました。誰でも救われた者は神様との関係が回復し、あの10枚の銀貨のように創造された使命を果たすのです。「何をいただけますか」と聞くことはかりになっていないでしょうか。「何をすればよいのでしょうか」という質問もしてみましょう。またその答えを明確にいただき、その使命のために決心しましょう。それは主があなたの人生に持つておられる、計画と祝福の扉です。

パウロは「あなた…証人とされるのですから。さあ、なぜためらっているのですか。…バプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。」と言われて従いました。救いに際して、すでに使命が用意されていたのです。私たちも同じです。神の民となっても役に立たないとみなされはけません。自分自身の役割・使命を主からいただきましょう。またはすでに与えられているものを再確認しましょう。さらには何が最も大切な使命なのかを明確にしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22:17 それから私がエルサレムに帰り、宮で祈っていたとき、私は夢心地になりました。

22:18 そして主を見たのです。主は私にこう語られました。『早く、急いでエルサレムを離れなさい。わたしについてあなたがする証しを、人々は受け入れないから。』

22:19 そこで私は答えました。『主よ。この私が会堂ごとに、あなたを信じる者たちを牢に入れたり、むちで打ったりしていたのを、彼らは知っています。』

22:20 また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私自身もその場において、それに賛成し、彼を殺した者たちの上着の番をしていたのです。』

22:21 すると主は私に、『行きなさい。わたしはあなたを遠く異邦人に遣わす』と言われました。』

22:22 人々は彼の話をごここまで聞いていたが、声を張り上げて言った。「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない。』

22:23 人々がわめき立て、上着を放り投げ、ちりを空中にまき散らすので、

22:24 千人隊長は、パウロを兵営の中に引き入れるように命じ、なぜ人々がこのように彼に対して怒鳴っているのかを知るため、むちで打って取り調べるように言った。

22:25 彼らがむちで打とうとしてパウロの手足を広げたとき、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にもかけずに、むちで打つてよいのですか。』

22:26 これを聞いた百人隊長は、千人隊長の

ところに行って報告し、「どうなされますか。あの人はローマ市民です」と言った。

22:27 そこで、千人隊長はパウロのところに来て言った。「私に言いなさい。あなたはローマ市民なのか。』パウロは「そうです」と答えた。

22:28 すると千人隊長は言った。「私は多額の金でこの市民権を手に入れたのだ。』パウロは言った。「私は生まれながらの市民です。』

22:29 そこで、パウロを取り調べようとしていた者たちは、すぐにパウロから身を引いた。千人隊長も、パウロがローマ市民であり、その彼を縛っていたことを知って恐れ

た。

パウロの救いと、召命の証しです。証しの中には複数のクリスチャンが出てくる場合がありますが、それこそ神様の導きと言えるでしょう。人が救われるためには、誰か1人だけに「お世話になった」というものではなく、様々な人がそのために役割を果たしているのです。それによって背後に神様が働いておられるということがわかります。バルナバに加えて12節のアナニヤもその1人です。ステパノも間接的に用いられたと言えるでしょう。救いが1人の功績であるかのように伝わらないように注意する必要もあるでしょう。

パウロが生まれながらのローマ市民であるということは、両親もまたローマ市民であったということです。パウロはタルソ出身ですが、その地域または祖先が皇帝に対して何らかの貢献をし、それで与えられたと考えられています。

彼はこのような特権を自分のためには用いませんでした。ましてや自慢もませんでした。ただ主の使命のために用いたのです。

私たちはそれぞれ何かしら有利な立場や権利を持っているものです。社会的なものあれば人間

関係によるものもあるでしょう。それを主のために用いるべきです。または用いられないだろうか、いつもチャンスを見つけるべきです。

それらは主の目的のために主から与えられているのですから、そのために用いないと無駄にしてしまうでしょう。取り上げられないとも限りませんが、それを恐れるからではなく、主の前進を喜びとするゆえに用いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22:30 翌日、千人隊長は、パウロがなぜユダヤ人たちに訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を解いた。そして、祭司長たちと最高法院全体に集まるように命じ、パウロを連れて行って、彼らの前に立たせた。

23:1 パウロは、最高法院の人々を見つめて言った。「兄弟たち。私は今日まで、あくまでも健全な良心にしたがって、神の前に生きてきました。」

23:2 すると、大祭司アナニアは、パウロのそばに立っていた者たちに、彼の口を打つように命じた。

23:3 そこで、パウロはアナニアに向かって言った。「白く塗った壁よ、神があなたを打たれる。あなたは、律法にしたがって私をさばく座に着いていながら、律法に背いて私を打てと命じるのか。」

23:4 すると、そばに立っていた者たちが「あなたは神の大祭司をののしるのか」と言ったので、

23:5 パウロは答えた。「兄弟たち。私は彼が大祭司だとは知らなかった。確かに、『あなたの民の指導者を悪く言ってはならない』と書かれています。」

23:6 パウロは、彼らの一部がサドカイ人で、一部がパリサイ人であるのを見てとって、最高法院の中でこう叫んだ。「兄弟たち、私はパリサイ人です。パリサイ人の子です。私は死者の復活という望みのことで、さばきを受けているのです。」

23:7 パウロがこう言うと、パリサイ人とサドカイ人の間に論争が起こり、最高法院は二つ

に割れた。

23:8 サドカイ人は復活も御使いも霊もないと言い、パリサイ人はいずれも認めているからである。

23:9 騒ぎは大きくなった。そして、パリサイ派の律法学者たちが何人か立ち上がって、激しく論じ、「この人には何の悪い点も見られない。もしかしたら、霊が御使いが彼に語りかけたのかもかもしれない」と言った。

23:10 論争がますます激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと恐れた。それで兵士たちに、降りて行ってパウロを彼らの中から引っ張り出し、兵營に連れて行くように命じた。

23:11 その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことを証したように、ローマでも証しをしなければならない」と言われた。

エルサレムでは苦難が待ち受けているということ、パウロも周囲も知っていました。しかし、異邦人の救いと割礼のことなど、そしてパウロが書簡に記したような教理的なことなどを、エルサレムの教会指導者たちと一致させなければなりませんでした。

パウロは1人でも行動する信念の人でしたが、独善的な孤高の人ではなく、交わりと協力のひとでもあったのです。それは教会がキリストの体であるという主の示しから来たものでしょう。エルサレムでの活動は、無鉄砲ではなく主の必然であったのです。

また彼はそのために自分の不利益を厭（いと）いませんでした。私たちはときには、主からのアイデアや計画を知っているながら、自分に役目が

回って来そうになると、消極的になったり意見を控えたりすることはないでしょうか。パウロが命をかけたことを思えば、役割を担うことを避けないようにしたいものです。

パウロはカイサルに上告するためにローマに行くことを願っていました。そのためにはエルサレムの法廷で結審してしまわないようにしなければなりません。その微妙な振る舞いを、おそらく聖霊に導かれて、なすことができました。すなわちパリサイ人とサドカイ人の違いを衝（つ）いたのです。

このように主のご計画に進むなら、自分の思いもよらない摂理とともに、自分自身の知恵をも用いることができます。知恵をきよいものにしていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23:12 夜が明けると、ユダヤ人たちは徒党を組み、パウロを殺すまでは食べたり飲んだりしない、と呪いをかけて誓った。

23:13 この陰謀を企てた者たちは、四十人以上いた。

23:14 彼らは祭司長たちや長老たちのところに行って、次のように言った。「私たちは、パウロを殺すまでは何も口にしない、と呪いをかけて堅く誓いました。」

23:15 そこで、今あなたがたは、パウロのことをもっと詳しく調べるふりをして、彼をあなたがたのところに連れて来るように、最高法院と組んで千人隊長に願ひ出てください。私たちのほうでは、彼がこの近くに来る前に殺す手はずを整えています。」

23:16 ところが、パウロの姉妹の息子がこの待ち伏せのことを耳にしたので、兵營に来て中に入り、そのことをパウロに知らせた。

23:17 そこで、パウロは百人隊長の一人を呼んで、「この青年を千人隊長のところに連れて行ってください。何か知らせたいことがあるそうです」と言った。

23:18 百人隊長は彼を千人隊長のもとに連れて行き、「囚人パウロが私を呼んで、この青年をあなたのところに連れて行くように頼みました。何かあなたに話したいことがあるそうです」と言った。

23:19 すると、千人隊長は青年の手を取り、だれもいないところに連れて行って、「私に知らせたいこととは何だ」と尋ねた。

23:20 青年は言った。「ユダヤ人たちは、パウロについても詳しく調べるふりをして、明日パウロを最高法院に連れて来るよう、あ

なたにお願いすることを申し合わせました。23:21 どうか、彼らの言うことを信じないでください。彼らのうちの四十人以上の者が、パウロを殺すまでは食べたり飲んだりしないと呪いをかけて誓い、待ち伏せをしています。今、彼らは手はずを整えて、あなたの承諾を待っているのです。」

23:22 そこで千人隊長は、「このことを私に知らせたことは、だれにも言うな」と命じて、その青年を帰した。

23:23 それから千人隊長は二人の百人隊長を呼び、「今夜九時、カイサリアに向けて出発できるように、歩兵二百人、騎兵七十人、槍兵二百人を用意せよ」と命じた。

23:24 また、パウロを乗せて無事に総督フェリクスのもとに送り届けるように、馬の用意もさせた。

23:25 そして、次のような文面の手紙を書いた。

23:26 「クラウディウス・リシア、謹んで総督フェリクス閣下にごあいさつ申し上げます。

23:27 この男がユダヤ人たちに捕らえられ、まさに殺されようとしていたときに、私は兵士たちを率いて行って彼を救い出しました。ローマ市民であることが分かったからです。

23:28 そして、ユダヤ人たちが彼を訴えている理由を知ろうと思ひ、彼を彼らの最高法院に連れて行きました。

23:29 ところが、彼が訴えられているのは、ユダヤ人の律法に関する問題のためで、死刑や投獄に当たる罪はないことが分かりました。

23:30 しかし、この者に対する陰謀があると

いう情報を得ましたので、私はただちに彼を閣下のもとにお送りします。なお、訴えている者たちには、彼のことを閣下の前で訴えるように命じておきました。」

40 人も人間から命を狙われるというのは、普通なら相当な恐怖でしょう。それも「殺してしまうまでは飲み食いしない」というのですから、彼らは命がけです。これは逃れようがないといえるでしょう。

主のために行動しているのにどうして?と思われそうですが、これもまた神様の知恵によります。40 人も敵がいることによって、パウロは数百人の兵士に守られて護送されたのです。

このように騒ぎが大きくなればなるほどパウロにとっては、結果的に好都合にもなりました。神様の知恵は大きく、またそのご計画は綿密で偉大です。

そのような主を体験することはすばらしいことです。パウロのように、主のためにリスクを負ってみませんか。

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか?



23:31 そこで、兵士たちは命じられたとおりパウロを引き取り、夜のうちにアンティパトリスまで連れて行き、
23:32 翌日、騎兵たちにパウロの護送を任せて、兵營に帰った。
23:33 騎兵たちはカイサリアに到着すると、総督に手紙を手渡して、パウロを引き合わせた。
23:34 総督は手紙を読んでから、パウロにどの州の者かと尋ね、キリキヤ出身であることを知って、
23:35 「おまえを訴える者たちが来たときに、よく聞くことにしよう」と言った。そして、ヘロデの建てた官邸に彼を保護しておくように命じた。
24:1 五日後、大祭司アナニアは、数人の長老たち、およびテルティロという弁護士と一緒に下って来て、パウロを総督に告訴した。
24:2 パウロが呼び出され、テルティロが訴えを述べ始めた。「フェリクス閣下。閣下のおかげで、私たちはすばらしい平和を享受しております。また、閣下のご配慮により、この国に改革が進行しております。
24:3 私たちは、あらゆる面で、また、いたるところでこのことを認め、心から感謝しております。
24:4 さて、これ以上ご迷惑をおかけしないために、私たちが手短かに申し上げることを、ご寛容をもってお聞きくださるようお願いいたします。
24:5 実は、この男はまるで疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒ぎを起こしている者であり、ナザレ人の一派の首謀者であ

ります。
24:6 この男は宮さえも汚そうとしましたので、私たちは彼を捕らえました。
24:7 【本節欠如】
24:8 閣下ご自身で彼をお調べくだされば、私たちが彼を訴えております事柄のすべてについて、よくお分かりいただけると思います。」
24:9 ユダヤ人たちもこの訴えに同調し、そのとおりだと主張した。

パウロがローマに行くために、様々な人々が主に用いられました。彼は囚人として連れられるのですから、皆が彼の味方ではありません。中には神様に敵対しつつも、結局用いられるという者もあるのです。

千人隊長は任務であるがゆえに、祭司長は傲慢と保身を目的とするがゆえに、総督は権威を守りたいがゆえに、主に用いられる結果となりましたが、神様からの良い報いなどは有り得ません。

私たち人間は自分の意思で動いているのですが、結局は全能の神様のご計画に用いられるのです。ならば、神の味方、神の民として、神様から良い報いを受けた方がはるかに幸いでしょう。主を愛する動機を心に広げましょう。主のために生きましょう。色々なことを主のためにという目的で、見直してみましよう。

大祭司アナニアと長老たちは、パウロを訴えたいがために、またそれを受け入れて欲しいがために、総督ペリクスに取り入っているのがわかります。人間は共通の敵をもつと仲良くなれるもので、国際関係でさえそれで動くことがあるほどです。テルトリの訴えはまさに、パウロを共通の敵としようとしています。

私たちはもしかするとこれまでにパウロのような辛い経験をしたことがあるかもしれません。または逆に、気が付くと誰かを共通の敵（または批

判の対象)にしていたかも知れないと気づくこともあったでしょう。

動機や目的が間違っていると、または神様の御心からずれていると人間的な画策に走りやすいもので、結局アナニアたちのように味方を取り込みながら、誰かを批判するということになりかねません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24:10 そのとき、総督がパウロに話すよう合図したので、パウロは次のように答えた。「閣下が長年、この民の裁判をつかさどってこられたことを存じておりますので、喜んで私自身のことを弁明いたします。

24:11 お調べになれば分かることですが、私が礼拝のためにエルサレムに上ってから、まだ十二日しかたっていません。

24:12 そして、宮でも会堂でも町の中でも、私がだれかと論争したり、群衆を扇動したりするのを見た者はいません。

24:13 また、今私を訴えていることについて、彼らは閣下に証明できないはずです。

24:14 ただ、私は閣下の前で、次のことは認めます。私は、彼らが分派と呼んでいるこの道にしたがって、私たちの先祖の神に仕えています。私は、律法にかなうことと、預言者たちの書に書かれていることを、すべて信じています。

24:15 また私は、正しい者も正しくない者も復活するという、この人たち自身も抱いている望みを、神に対して抱いています。

24:16 そのために、私はいつも、神の前にも人の前にも責められることのない良心を保つように、最善を尽くしています。

24:17 さて私は、同胞に対して施しをするために、またささげ物をするために、何年ぶりかで帰って来ました。

24:18 そのささげ物をし、私は清めを済ませて宮の中にいるのを見られたのですが、別に群衆もおたず、騒ぎもありませんでした。

24:19 ただ、アジアから来たユダヤ人が数人いました。もしその人たちに、私に対して何

か非難したいことがあるなら、彼らが閣下の前に来て訴えるべきだったのです。

24:20 そうでなければ、ここにいる人たちが、最高法院の前に立っていたときの私に、どんな不正を見つけたのかを言うべきです。

24:21 私は彼らの中に立って、ただ一言、『死者の復活のことで、私は今日あなたがたの前でさばかれている』と叫んだにすぎません。」

24:22 フェリクスは、この道についてかなり詳しく知っていたので、「千人隊長リシアが下って来たら、おまえたちの事件に判決を下すことにする」と言って、裁判を延期した。

24:23 そして百人隊長に、パウロを監禁するように、しかし、ある程度の自由を与え、仲間の者たちが彼の世話をすることを妨げないように、と命じた。

主の御心ならば、そしてみことばを証ししつつ祈っているなら、必ず正しい方向けるチャンスがあるものです。もしもパウロのように訴えられることがあっても、画策によって対抗せずに、主の真理を求め、また忍耐と愛によって対抗しましょう。

パウロはテルトロのように総督にこびたりせずに、客観的に話します。それは本当に権威を持っているのは神ご自身であるという確信からです。私たちも人を恐れずに、神を恐れて真理に従う者になりたいものです。

また彼は自分をことさらに美化したり弁解したりせずに、客観的に語ります。「彼らが異端と呼んでいる」などということばなどは、全く中立的な表現です。人や社会が自分自身に対して何らかの決定を下すときに、それは客観的であり公平であるべきというパウロの信念が伺えます。それも

また神に信頼してからこそ信念を貫けると言えるでしょう。

しかし、福音に関しては明言して、その信仰によって「良心を保つように、と最善を尽くして」いると、福音が社会的に善であるあることを証ししています。ここにこそ説得力があります。ペリクスもパウロに一目置いた理由がここにあるのです。そのように人を恐れずに、神に信頼する姿勢をもって証しし伝道しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたその部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

